

2024 年度 事業報告書

(2025 年度第 1 回理事会 承認)

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

公益財団法人 全日本柔道連盟

I 法人の概況

1. 沿革

創立	昭和 24 年 5 月 6 日
法人格取得	昭和 63 年 6 月 8 日
日本体育協会（現 日本スポーツ協会）加盟	昭和 24 年 10 月 26 日
国際柔道連盟加盟	昭和 27 年 12 月 9 日
アジア柔道連盟加盟	昭和 31 年 5 月 2 日
日本オリンピック委員会加盟	平成元年 8 月 7 日
公益財団法人への移行	平成 24 年 4 月 1 日

2. 目的

この法人は、わが国における柔道競技界を統轄し代表する団体として、嘉納治五郎師範によって創設された柔道（以下、単に「柔道」という。）の普及および振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

3. 事業内容

- （１）柔道に関する競技者および指導者の育成
- （２）柔道に関する競技会および講習会の開催
- （３）柔道用具の公認および検定
- （４）柔道に関する国際交流および国際貢献
- （５）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況（2025 年 3 月 31 日現在）

区分		2024 年度	2023 年度	増減
団体	チーム数	7,128	7,352	-224 (96.9%)
個人	役員等	15,713	16,413	-700 (95.7%)
	社会人	25,170	24,924	+246 (101.0%)
	大学生	9,347	10,090	-743 (92.9%)
	高校生	16,339	16,251	+88 (99.5%)
	中学生	26,346	26,703	-357 (98.7%)
	小学生	28,493	27,494	+999 (103.6%)
	未就学児	1,552	1,499	+53 (103.5%)
	学校顧問特例資格者	879	1,183	-304 (74.3%)
	登録者計	123,839	124,559	-720 (99.4%)

5. 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所 東京都文京区春日 1 丁目 16 番 30 号 講道館本館 5 階

従たる事務所 無し

6. 役員等に関する事項（2025 年 3 月 31 日現在）

役職	氏名	常勤・非常勤の別
会長（代表理事）	中村 真一	非常勤
副会長	石井 淳子	非常勤
副会長	西田 孝宏	非常勤
副会長兼専務理事（業務執行理事）	中里 壮也	常勤
副会長	冲永 佳史	非常勤
常務理事	松井 勲	非常勤
常務理事	大迫 明伸	常勤
常務理事	小野山 修平	非常勤
常務理事 事務局長	高山 健	常勤
常務理事	本郷 亮	非常勤
理事	山本 国博	非常勤
理事	黒田 一彦	非常勤
理事	鳥居 吉二	非常勤
理事	八本木 通秋	非常勤
理事	辻本 修	非常勤
理事	正木 嘉美	非常勤
理事	山藤 哲夫	非常勤
理事	寛藤 次男	非常勤
理事	小形 健二	非常勤
理事	中村 佳央	非常勤
理事	兒玉 篤	非常勤
理事	神谷 兼正	非常勤
理事	天野 玲子	非常勤
理事	高村 江津子	非常勤
理事	渡辺 涼子	非常勤
理事	塗師 純子	非常勤
理事	松田 基子	非常勤
理事	天野 安喜子	非常勤
理事	中村 淳子	非常勤
監事	田中 秀一郎	非常勤
監事	近藤 智子	非常勤
監事	北村 康央	非常勤

女性理事 29 名中 8 名（27.6%）

スポーツ団体ガバナンスコードで定義する外部理事 29 名中 5 名（17.2%）

7. 職員に関する事項 (2025 年 3 月 31 日現在)

職員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	27	+4	45.8 歳	7.1 年
女性	16	-2	40.5 歳	6.6 年
合計	43	+2	43.8 歳	6.9 年

8. 許認可に関する事項

変更なし

Ⅱ 事業の状況

1. 概要

- (1) 当期の会員登録者数は 123,839 名となった。前期からは微減であるが、新型コロナウイルス感染症が日本で流行する以前の 2019 年度（143,579 名）と比較すると約 86%まで落ち込んでいる。
- 一方で、財政の大きな柱であるスポンサー収入は、年間スポンサー数は前年度の 30 社から 31 社へ増加し、協賛収益は前年度比で約 5%増加した。

- (2) 選手強化事業においては、7 月 27 日から 8 月 3 日に開催されたパリオリンピックを最大目標に取り組み、金メダル 3 個、銀メダル 2 個、銅メダル 3 個の成績を収めた。10 月には新強化体制となり、塚田真希氏が女性として初となる全日本女子監督に就任し、2028 年ロサンゼルスオリンピックでの活躍が期待される場所である。

ジュニア選手の強化においては、10 月にタジキスタン・ドゥシャンベで開催された世界ジュニア選手権大会を目標として選手強化に取り組み、混合団体戦を含め 7 個の金メダルを獲得し、当初の目標を達成することができた。また、国際大会の後に行われる国際合宿に参加し、大会での課題や反省点の改善はもちろんのこと、ジュニア選手にとって外国人選手と接すること、海外での生活における日本との違いを学ぶことで競技力だけでなく精神力の強化にもつながった。

- (3) 普及事業においては、従来からの普及事業に加え、事務局が中心となって各都道府県や関係機関等と連携して推進している各種普及促進事業が軌道に乗り始めた。今後は、全国各地での実施に向けた周知活動や事業内容の充実に向けた検討を進めていく。

また、長期育成指針の浸透にあたっては、長期育成指針で示す必然性による柔道の普及振興、選手強化を促進していくための革新的なアスリートパスウェイを確立するための取り組みを進めている。あわせて、10 月には長期育成指針で重要な役割を担う指導者の方向性を示した指導者養成指針を策定し、これに合わせた指導者養成カリキュラムの検討を進めている。

- (4) 競技会の開催事業においては、日本代表選手を選考するトップアスリートの大会から小学生の普及を目的とした大会まで、当初の計画通り 18 の国内主催大会を開催し成功させた。また、12 月には国際柔道連盟主催のグランドスラム東京の運営に当たり、パリオリンピック直後の大会ではあったが、44 か国・地域から多くのオリンピックメダリストを含む 274 名の選手が参加して白熱した試合が数多く展開され、国際大会らしい盛り上がりを見せた。

講習会の開催事業においては、指導者や審判員向けにオンライン及び対面式での講習会や研修会を実施する一方で、各資格の更新講習はオンデマンド方式を導入し、各自の都合に合わせて受講できる体制を整備した。また、希望のあった都道府県に対してはコンプライアンスや安全指導講習の講師を派遣して、柔道界におけるインテグリティ向上に務めた。

- (5) その他事業においては、「柔道における女性の活躍プラン」に基づくジェンダー平等の実現にむけた事業、障害を持つ方々への柔道を通じた社会復帰支援事業、国際交流や途上国への支援物資を通じた国際貢献事業等、柔道を通じた SDGs の達成に向けた各種事業を実施した。

また、公式ウェブサイトや公式 SNS、YouTube 公式チャンネル等を活用して効果的に情報発信を行い、柔道関係者だけではなく幅広い層へ柔道の魅力を発信するための PR 活動を行った。

2. 会議の開催

(1) 評議員会

第1回（定時）

日 時	2024年6月27日（木）15時00分～15時45分
場 所	全柔連 401 会議室及びオンライン会議
招 集	理事会の決議により会長が招集（定款第19条第1項）
決議事項	第1号議案 第12期決算の承認

第2回（臨時）

日 時	2024年12月19日（木）開会 15時00分 閉会 16時30分
場 所	学士会館 203 号室及びオンライン会議
招 集	理事会の決議により会長が招集（定款第19条第1項）
決議事項	なし

(2) 理事会

第1回（定時）

日 時	2024年6月3日（月）15時00分 開会 16時00分 閉会
開催場所	講道館本館4階 全柔連 401 会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 2023年度事業報告 承認の件 第2号議案 第12期決算報告 承認の件 第3号議案 常勤役員報酬額 承認の件 第4号議案 中学校柔道振興協議会 設立の件 第5号議案 公認指導者資格制度規程 改正の件 第6号議案 公認審判員規程 改正の件 第7号議案 柔道事故防止に向けた安全管理規程 制定の件 第8号議案 2024年度第1回評議員会（定時評議員会）招集の件

第2回（臨時）

日 時	2024年9月24日（火）15時00分 開会 15時15分 閉会
開催場所	講道館本館4階 全柔連 401 会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 次期強化委員会委員長及び副委員長 選任の件 第2号議案 スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査 対応の件 (1) 定款細則の改正 (2) 経営管理委員会規程の改正 第3号議案 その他 (1) 国際委員会委員長・副委員長の選任の件

第3回（定時）

日 時	2024年10月9日（水）15時00分 開会 16時00分 閉会
開催場所	講道館本館4階 全柔連 401 会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 全日本監督 選任の件 第2号議案 2024年度修正予算 承認の件 第3号議案 役員等賠償責任保険契約 締結の件

第4号議案 アスリート委員会規程 改正の件

第5号議案 指導者養成指針 策定の件

第4回（臨時）

日 時 2024年12月4日（水）15時00分 開会 15時45分 閉会

開催場所 講道館本館4階 全柔連401会議室及びオンライン会議

決議事項 第1号議案 定款細則 改正の件

第2号議案 公認用具（柔道畳）規程 改正の件

第3号議案 公認審判員規程 改正の件

第4号議案 2024年度第2回評議員会（臨時評議員会） 招集の件

第5号議案 その他

（1）井上康生氏への特別顧問委嘱の件

第5回（定時）

日 時 2025年3月13日（木）15時00分開会 16時30分閉会

開催場所 講道館本館4階 全柔連401会議室及びオンライン会議

決議事項 第1号議案 2025年度事業計画 承認の件

第2号議案 2025年度収支予算 承認の件

第3号議案 アスリート委員会委員長及び副委員長 選任の件

第4号議案 規程類管理規程 改正の件

第5号議案 強化システムに関する規程 改正の件

第6号議案 国内における「少年大会特別規程」改正の件

第7号議案 優秀指導者（団体）表彰受賞者 承認の件

第8号議案 専門委員会規程及び事務局規程 改正の件

第9号議案 発達特性特別委員会 設置の件

第10号議案 その他

（1）発達特性特別委員会 委員長及び副委員長 選任の件

（2）公認柔道指導者資格制度規程 改正の件

第6回（臨時）

日 時 2025年3月27日（木）16時00分開会 16時35分閉会

開催場所 講道館本館4階全柔連401会議室及びオンライン会議

決議事項 第1号議案 東京都柔道連盟専務理事に対する懲戒処分の件

（1）処分内容を「注意」とする件

（2）処分の公表を匿名化のうえ本連盟HPに掲載する件

第2号議案 柔道塾（千葉県）柔道指導者に対する懲戒処分の件

（1）懲戒処分に至る手続きにおいて、時限性等を勘案し、調査チーム設置のうえで調査を行う手続き（倫理・懲戒規程第8条）を省略する件

（2）処分内容を「除名」とする件

（3）処分の公表を匿名化のうえ本連盟HPに掲載する件

第3号議案 本連盟役員に対し、規程の定めが無い事項に関する報酬支払いの件

（1）第1号、第2号議案に係る事案に関し、本郷常務理事、渡辺涼子

理事及び北村監事に対して依頼した調査チーム・懲戒委員会での調査・審議等に対する報酬を支払う件
(2) 金額等、その具体的内容については会長に一任する件

(3) 加盟団体会長会議

日 時 2024 年 11 月 28 日 (木) 開会 13 時 00 分 閉会 17 時 15 分
開催場所 日本青年館ホテル 8 階カンファレンスルーム
議 題 全体会議

(1) 全柔連普及促進事業について

- ①概要
- ② J S P O - A C P @ 柔道場
- ③ 転び方教室 (未就学児・小学生及び高齢者)
- ④ 中学校柔道振興協議会
- ⑤ 7 割柔道クラブ
- ⑥ 指導者養成指針

(2) 2024 年度登録状況

(3) 日本武道館主催「地方青少年武道錬成大会・地域社会武道指導者研修会」について

(4) 雑誌「柔道マガジン」購読のお願い

分科会

- A J S P O - A C P @ 柔道場の展開
- B 転び方 (未就学児・小学生及び高齢者)
- C 中学校部活動地域移行対策
- D 7 割柔道クラブの全国展開

3. 専門委員会等活動報告

(1) 総務委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 4回(5月21日、9月10日、11月5日、2月26日)

【活動報告】

1. 企画関係事業

(1) 2023 年度事業報告

2023 年度各専門委員会等の事業報告を確認し、全体の概要をまとめたうえで理事会に付議し、承認された。

(2) 2025 年度事業計画

2025 年度各専門委員会等の事業計画を確認し、全体の概要をまとめたうえで理事会に付議し、承認された。

(3) 中学校柔道振興協議会の設立

中学校運動部活動地域移行の対策として中学校柔道振興協議会の設立を理事会に提案し、承認された。

日本中学校体育連盟(中体連)柔道競技部は中学校部活動の組織であるため、中学校柔道振興協議会が地域移行に関する課題解決や教育委員会への働きかけ等を行っていき、中体連を補完する活動を進めていく。また、中学校柔道振興協議会は、各都道府県の代表者を集めての会議や、各ブロックの代表者で構成される中央委員会を開催していく。

(4) 役員等賠償責任保険契約の締結

本連盟では、2013 年 11 月から役員等賠償責任保険契約を締結している(1 年更新)が、一般法人法の改正により同保険契約の締結にあたっては理事会の承認が必要となったため、あらためて理事会に付議し、承認された。

(5) 規程類の整備

①定款細則の改正

スポーツ団体ガバナンスコードにおける役員選考に関する規定が改定され、それに合わせて定款細則の改正案を理事会に付議し、承認された。

定款細則の主な改正点は以下のとおり。

- ・「専門的知見を期待して理事に選任した場合は外部理事とすることができる」との規定を削除した。
- ・理事が 5 期 10 年の任期を務め、その後再び選任するまでの必要な期間を「任期 2 期分以上」とした。
- ・理事候補者に期待する知識・経験・能力等を規定した。

②公認用具(柔道畳)規程の改正

公認畳制度の設立当初は、各社最高品質の畳 1 製品を公認畳とすることとしていたが、2012 年からの中学校武道必修化を見据えて公認基準を柔軟かく安全性を高める方向に改正し、それに伴い各社複数製品を公認することとした。

改正前の公認用具(柔道畳)規程には、1 社 1 製品を公認としていた時の公認品目を変更する手

続き、公認量の品目を変更した際の認定料の規定が残っており、これらの規定を削除することを理事会に付議し、承認された。

③規程類管理規程の改正

改正前の規程類管理規程は、規程類を定款・規程・規則・規準の4区分としていたが、「行動や判断を導く基準や標準を理事会決議により定めたもの」を区分する規範、「本連盟の機関または組織が機関・組織内の規定として定めたもの」を区分する規約を新たに加え、定款・規範・規程・規則・規準・規約の6区分とすることを理事会に付議し、承認された。

(6) スポーツ団体ガバナンスコードへの対応

当年度は統轄団体が実施する適合性審査を受ける年であり、事務局が作成したスポーツ団体ガバナンスコード各規定に対する遵守状況の自己説明について、本委員会でその正確性、適正性を確認した。

なお、適合性審査については、統轄団体から適合の評価を受けた。

2. 登録関係事業

- (1) 当年度の登録者数は123,839名となり、前年度から720名の減少となった。各種会議で随時、登録状況を報告し、登録人口増加の協力要請を行った。
- (2) 登録会員および都道府県柔道連盟（協会）からのJudo-Member操作方法や登録に関する問合せに対し、円滑に利用できるようサポート業務を行った。
- (3) 広報誌「まいんど」各号に登録制度、登録システムについての情報を掲載し、登録会員への周知を図った。
- (4) 登録会員数推移および県別・区分別登録会員数を公式ウェブサイトに掲載した。

3. 財政関係事業

第1回総務委員会において、2023年度決算報告書の適正性を確認した上で、理事会に付議した。

2024年度修正予算、2024年度予算執行状況、2024年度決算見込を策定し、理事会等で報告を行った。

第4回総務委員会において、2025年度収支予算の適正性を確認し、定時理事会に付議した。

(2) 大会事業委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回 (5月20日)
2. 委員長副委員長会議 1回 (3月3日)

【活動報告】

1. 国際大会の運営

下記の大会において、国際柔道連盟 (I J F) 等の規則に則った競技運営を行った。

- ① グランドスラム東京 (12月7日～8日・東京体育館) 44か国 274名出場

2. 国内大会の運営

下記の18主催大会において、「全柔連大会運営規程」に則った運営及び指導を行い、大会を成功させると共に、国内における大会運営基準統一化を図った。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4月6日～7日・福岡国際センター)
- ② 皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4月21日・横浜武道館)
- ③ 全日本柔道選手権大会 (4月29日・日本武道館)
- ④ 全国少年柔道大会 (5月4日～5日・講道館)
- ⑤ 全日本柔道形競技大会 (6月1日・講道館)
- ⑥ 全日本少年少女武道(柔道)錬成大会 (8月4日・日本武道館)
- ⑦ 全国高等学校定時制通信制柔道大会 (8月4日・講道館)
- ⑧ 全国高等学校柔道大会 (8月10日～14日・レゾナック武道スポーツセンター)
- ⑨ 全国中学校柔道大会 (8月20日～23日・長野県立武道館)
- ⑩ 全日本小学生育成プロジェクト (8月25日・横浜武道館)
- ⑪ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9月7日～8日・高崎アリーナ)
- ⑫ マルちゃん杯全日本少年柔道大会 (9月22日・東京武道館)
- ⑬ 国民スポーツ大会柔道競技 (10月12日～14日・SAGAアリーナ)
- ⑭ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11月2日～3日・高崎アリーナ)
- ⑮ 文武両道杯全国高校柔道大会 (12月14日・講道館)
- ⑯ 全日本シニア柔道体重別選手権大会 (2月22日～23日・大浜だいしんアリーナ)
- ⑰ 全国高等学校柔道選手権大会 (3月19日～20日・日本武道館)
- ⑱ 柔道マガジン杯全国中学生柔道大会 (3月22日～23日・横浜武道館)

(3) 広報マーケティング委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 メール審議 2 回 (5 月、1 月)
2. まいんど部会 対面 4 回 (4 月、7 月、10 月、1 月)
3. メディア勉強会 対面 1 回 (5 月 3 日)
4. 大会オフィシャルカメラマン委託 7 回 (大会・合宿等)

【活動報告】

1. マーケティング

東京オリンピック後の補助金・助成金の減額、既存スポンサーの協賛金減少、特別賛助会員の剥落等の減収を補填すべく、柔道の提供価値の整理ならびに連盟協賛の価値向上の取り組みを行うとともに、柔道の受身をプログラム化した転び方教室などの柔道普及イベントや全日本柔道選手権大会を利用した体験企画など、スポンサーとのタイアップ事業を行い、大会等での広告露出以外の部分でもアプローチを続けた。2024 年度の協賛社数は前年度の 30 社から 31 社へ増加となり、協賛収益は 2023 年度比で約 5%増加した。

また、SNS 分析ツールを新たに導入したことにより、パリオリンピックへの関心や行動をリアルタイムで把握でき、柔道に対する評価や関心の度合いを可視化することで、施策の最適化に役立てることができた。

2. データ蓄積・開示

試合結果をセイコースポーツリンクのシステムを通じて、パソコン、スマートフォン向けに速報及び詳細結果それぞれのコンテンツを用意し提供した。試合会場においてもモニターを設置し、選手関係者、観客等が試合進行を把握できるように以下の大会で運用した。

今年度よりセイコースポーツリンク上で選手の過去の戦績や結果を閲覧できるシステム「選手 Bio 大会結果」を開発した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会
- ②皇后盃全日本女子柔道選手権大会
- ③全日本柔道選手権大会
- ④全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
- ⑤講道館杯全日本柔道選手権大会
- ⑥全日本シニア柔道体重別選手権大会

4. 「まいんど」発行等

広報誌「まいんど」を 4 回 (6 月、8 月、11 月、2 月) 刊行した。発行部数は毎号約 3 万部であり、登録団体や関係各所へ発送し、柔道の魅力を発信した。毎号デジタルブック化したうえで公式ウェブサイト上へ掲載し、毎号約 1,200 件の閲覧があった。

5. 公式ウェブサイトを用いた情報発信、保守・運用

公式ウェブサイトを利用者により分かりやすく更新するとともに、柔道のメディアバリュー向上のため、公式 YouTube チャンネル「全柔連 TV」を中心にデジタルコンテンツの発信を行った。

実施にあたっては、クオリティ向上及び発信頻度の最適化に努め、X、Facebook、Instagram のアカウントと連動させ、プロモーションを行った。結果として全柔連 TV のチャンネル登録者数は 18%増加 (約 7.2 万人) し、総再生回数は約 3,550 万回に達した。動画の大部分は主催大会の試合映像であ

り、主催大会にはスポンサーの社名・ロゴ入りのアドボードを掲出しているため、スポンサー露出増、協賛価値向上につながり、マーケティング面でも有用に機能した。

また、今年度よりスポーツナビの公式ページに世界選手権やオリンピックなどの大会情報を掲載し、スポーツに関心のある層への積極的なアプローチを行った。

(4) 教育普及・MIND委員会

【会議の開催】

1. 教育普及・MIND委員会 会議 2回 (7月11日、1月16日)
2. 教育普及部会 2回 (6月28日、1月15日)
3. 柔道MINDプロジェクト部会 3回 (7月3日、1月15日、3月5日)
4. 形部会 2回 (6月18日、2月16日)
5. 視覚障がい者・ろう者柔道連携部会 1回 (3月4日)
6. 知的障がい者柔道振興部会 4回 (8月7日、10月21日、11月19日、11月26日)

【活動報告】

1. 教育普及・MIND委員会 (全体)
委員長、副委員長、各部会長にて会議を実施し、各部会の事業状況を報告、確認し、部会事業を円滑に進められるように議論を重ねた。
2. 教育普及部会
 - (1) 柔道教室の開催及び日本武道館主催事業の講師選定
本連盟主催柔道教室を全国5か所で開催した。また、日本武道館主催地方青少年錬成大会(9か所)・地域社会指導者研修会(3か所)の講師を選定した。
 - (2) 派遣講師研修会の開催
3月1日に講道館の道場にて対面、およびオンラインを活用して開催した。
 - (3) 大会イベントの開催
国民スポーツ大会柔道競技(佐賀県)にて交流イベントを実施し、芳田司氏と老野祐平選手が講師として参加した。
3. 柔道MINDプロジェクト部会
 - (1) MIND賞の選考
各都道府県柔道連盟から推薦規則をもとに候補者を推薦していただき、部会にて小学生18名、中学生15名の計33名に授与することを決定した。
表彰式は、2025年4月20日の皇后盃全日本女子柔道選手権大会にて、代表者2名で実施した。
 - (2) 柔道MIND講話
2022年度に作成した柔道MIND講話10回分の説明文を作成した。2025年度にイラストとともに公式ウェブサイトに掲載するべく、準備を進めている。
4. 形部会
 - (1) 世界形選手権大会派遣(11月9日～10日 アメリカ)
6月に講道館で行われた全日本形競技大会で優勝した組の中から3組を選出し、11月にアメリカ・ラスベガスで開催された世界形選手権へ派遣した。結果は、固の形、極の形、講道館護身の3種目すべてで優勝を果たした。
 - (2) 世界形代表組 個別分散合宿(10月 京都府、東京都)
世界形選手権代表組に対して、大会本番前にそれぞれ個別分散合宿を行った。形部会より、実施種目の形担当者を講師として派遣した。
 - (3) 全日本形合宿(2月16日、ナショナルトレーニングセンター)
ナショナルトレーニングセンター(NTC)にて形合宿を開催した。形部会員、形強化組および

自主参加の全日本学生柔道連盟推薦組など約 100 名が参加し、投の形、固の形、極の形、柔の形、講道館護身術の 5 種目を実施した。

(4) 形審査員研修会・試験(1月18日～19日、東京都)

形審査員研修会・試験を講道館において開催し、研修会は 26 名、試験は 37 名が参加した。あわせて、形審査員資格更新のためのオンラインによる研修会も実施した。形審査員の 2024 年度末現在での有資格者数は、投の形 198 名、固の形 138 名、極の形 132 名、柔の形 151 名、講道館護身術 157 名、五の形 139 名、古式の形 113 名である。

5. 視覚障がい者・ろう者柔道連携部会

(1) 日本視覚障害者柔道連盟に対し、300 万円の活動資金を援助した。

(団体支援金)

2024 年パリパラリンピックに向けた国内合宿等の強化事業 100 万円

2024 年パリパラリンピック出場選手の国際大会派遣事業 100 万円

シード権を獲得するために、パラリンピック前に国際大会への派遣を行った。

(部会予算)

視覚障害者柔道普及・啓発活動に係る講習会や体験会事業 100 万円

2024 年度は鹿児島県、千葉県、愛知県で開催した。

(2) 日本ろう者柔道協会に対し、80 万円の活動資金を援助した。

(団体支援金)

第 2 回世界ろう者柔道大会(カザフスタン)派遣事業 80 万円

※日本視覚障害者柔道連盟、日本ろう者柔道協会からは、上記事業に関する財務ならびに事業実施報告を受けた。

6. 知的障がい者柔道振興部会

(1) 第 5 回全日本 I D (知的障がい者)柔道大会の開催

第 5 回全日本 I D 柔道大会を 9 月 14 日、15 日の 2 日間にわたり日本文化大學にて開催した。

参加選手は、男子選手 55 名・女子選手 14 名の計 69 名となり、過去最多であった。

14 日は出場選手のクラス分けを兼ねた交流練習会を行い、それをもとに 24 のグループに分けて試合を行った。大会後には、I D 柔道強化選手の選考を行った。

また、今回より、5 回出場した選手を対象とした、普段から選手をサポートしている関係者に向けた「サポーター賞」を設立し、感謝状を授与した。

(2) I D 柔道強化合宿の開催

①第 1 回(5 月 4 日～5 月 6 日)

I D 柔道強化選手を対象とした強化合宿を開催した。本合宿には、イギリス、ノルウェー、オーストラリア、オランダから I D 選手やコーチ、役員等が計 50 名参加しており、国際交流や指導者間の意見交換という観点からも意義のある合宿となった。

②第 2 回(7 月 5 日～7 月 7 日)

第 1 回合宿と同じく日本文化大學にて強化合宿を開催した。選手の強化を図る一方、インテグリティ研修会(オンライン)やアンチ・ドーピング研修会(対面)も開催した。また、選手が一人でも実践できるようなフィジカルトレーニングの講習会等も行った。

③第 3 回(2 月 22 日～2 月 23 日)

I D 柔道強化選手のうち、ダウン症の選手 6 名を対象とした合宿を日本文化大學において行っ

た。本合宿においては、ダウン症の選手に対する理解を深めた指導方法について指導者間で積極的に意見交換を行うとともに、専門家による講習会も行った。

(3) 普及および啓発活動

① I D 柔道安全指導講習会を 9 月 28 日に愛知県、11 月 4 日に北海道にて開催し、各講習会に部会より講師 2 名を派遣した。名古屋の講習会には 40 名、北海道の講習会には 30 名の指導者が参加した。I D 柔道の概要や、安全に配慮することを目的として策定された全日本柔道連盟 I D 柔道試合審判特別規程の説明、および I D 柔道の指導法や練習法について、実技を伴う講習を行った。

② I D 柔道紹介事業を下記のとおり 4 回実施した。

2024 年 10 月 20 日 島根県 参加者 25 名

2024 年 11 月 23 日 和歌山県 参加者 16 名

2024 年 12 月 8 日 千葉県 参加者 58 名

2025 年 1 月 26 日 広島県 参加者 39 名

柔道未経験の知的障がい者や保護者および柔道指導者に対して、I D 柔道のこれまでの歴史や活動、I D 柔道のルール説明等を紹介した。島根県と和歌山県では初の開催となり、千葉県と広島県では 2 回目の開催となった。

(4) 日本パラリンピック委員会(J P C)および公益財団法人日本パラスポーツ協会(J P S A)への継続加盟申請を行い、昨年度に引き続き J P C や J P S A 日本パラリンピック委員会の行っている助成事業を積極的に活用し事業を実施した。

(5) 審判委員会

【会議の開催】

1. 審判委員会 2回 (5月23日、1月23日)
2. 選考審査部会 3回 (5月24日、7月25日、2月20日)
3. 委員長副委員長会議 3回 (7月25日、12月23日、12月28日)
4. 少年大会特別規程検討ワーキング・グループ 2回 (2月12日、2月24日)

【活動報告】

1. Aライセンス審判員試験

事前の審判養成講習会及び学科試験のオンラインで実施した。実技試験は、全国各地で開催される地区ジュニア体重別選手権大会のうち、下記5ヵ所に試験官を派遣して実施した。

① 6/30	福岡武道館	試験官 3名	受験者 22名
② 7/7	埼玉県立武道館	試験官 4名	受験者 30名
③ 7/7	東京武道館	試験官 3名	受験者 15名
④ 7/7	兵庫県立武道館	試験官 3名	受験者 27名
⑤ 7/14	岡山武道館	試験官 3名	受験者 14名

108名が受験し、105名が合格した。

2. 審判員研修会・講習会

(1) S・Aライセンス審判員向けのオンライン審判更新講習会を実施した。

国際柔道連盟が2025年2月から施行する審判規程の改正に伴い、国内向けに変更点を周知させる為の動画を作成し、全柔連TVに掲載した。

- ①地方審判員講習会 (北海道) 50名
- ②オンライン審判更新講習会 1,435名受講 (うち受験者 108名) (※昨年 567名)

(2) 審判講習の教材となる「審判員の基本」動画の作成を行い、試合における審判員の基本的な所作等を具体的に示した

3. 国際審判員養成

(1) 2024年パリオリンピック、2028年ロサンゼルスオリンピックに向けての審判員育成のため、IJFからの指名および帯同審判員として下記の大会に審判員を派遣した。

(IJF指名審判員)

- ①アジア選手権大会 (4月17日～24日・香港) 天野安喜子
- ②グランドスラム・ドゥシャンベ (4月30日～5月6日・タジキスタン) 天野安喜子
- ③グランドスラム・アスタナ (5月7日～14日・カザフスタン) 天野安喜子
- ④ヨーロッパオープン・マドリード (6月7日～11日・スペイン) 天野安喜子
- ⑤世界選手権大会 (5月17日～26日・アブダビ) 天野安喜子
- ⑥パリオリンピック (7月24日～8月5日・フランス) 天野安喜子
- ⑦パリパラリンピック (8月3日～8月9日・フランス) 平野弘幸
- ⑧グランドスラム・東京 (12月5日～8日・日本) 平野弘幸・竹澤稔裕
- ⑨グランプリ・リンツ (3月4日～11日・オーストリア) 竹澤稔裕

(帯同審判員)

- ①世界ベテランズ大会 (11月2日～9日・アメリカ合衆国) 竹澤稔裕

(2) I J F 審判員試験のインターナショナル審判員試験に 1 名、コンチネンタル審判員試験に 1 名を派遣し、全員合格した。

(インターナショナル審判員試験)

アジアジュニア・カデ選手権大会 (6 月 30 日～7 月 9 日・カザフスタン) 濱岡睦月

(コンチネンタル審判員試験)

アジアジュニア・カデ選手権大会 (6 月 30 日～7 月 9 日・カザフスタン) 渡部成也

(3) I J F が主催するセミナーへ審判員 1 名を派遣した。

① I J F テクニカルセミナー (12 月 14 日～15 日・トルコ) 天野安喜子

4. 審判委員派遣

下記大会へ審判委員を派遣し、ケアシステムを用いて試合の円滑な運営に努めた。

①全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4 月 6 日～7 日・福岡国際センター)

②皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4 月 21 日・横浜武道館)

③全日本柔道選手権大会 (4 月 29 日・日本武道館)

④全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9 月 7 日～8 日・高崎アリーナ)

⑤国民スポーツ大会柔道競技 (10 月 12 日～14 日・SAGA アリーナ)

⑥講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11 月 2 日～3 日・高崎アリーナ)

⑦全日本シニア柔道体重別選手権大会 (2 月 22 日～23 日・大浜だいしんアリーナ)

5. 審判員審査

下記大会へ審査員を派遣し、S ライセンス審判員の審判員技量の審査をした。来年度までの 2 年間で審査を継続していく。

①全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4 月 6 日～7 日・福岡国際センター)

②皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4 月 21 日・横浜武道館)

③全日本柔道選手権大会 (4 月 29 日・日本武道館)

④全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9 月 7 日～8 日・高崎アリーナ)

⑤国民スポーツ大会柔道競技 (10 月 12 日～14 日・SAGA アリーナ)

⑥講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11 月 2 日～3 日・高崎アリーナ)

(6) 強化委員会

【会議の開催】

1. 男女合同強化委員会 9回(4月8日、5月29日、9月9日、11月5日、12月9日、12月17日、1月25日、2月19日、3月24日)
2. 男子強化委員会 1回(9月9日)
3. 女子強化委員会 1回(9月9日)

※1月25日のみ対面、他はオンラインで実施

【活動報告】

1. 大会視察および会議等の開催

上記会議の開催および、会議前に強化委員、コーチによる本連盟主催大会視察を実施し、会議における選手選考や審議内容の情報収集をした。

パリオリンピックが終わり、10月には強化委員長以下、委員、コーチが新体制となり、これまでの男女別強化委員会から、男女が一本化された強化委員会体制となった。

1月には新体制のコーチを対象とし、本連盟の組織、規程、予算、マーケティングなどの基本情報共有やコンプライアンス、アンチ・ドーピング等をテーマとしたコーチ研修会を実施した。

3月には強化選手の所属指導者および強化委員、コーチをオンラインでつなぎ、強化連携フォーラムを実施し、新体制における次年度の強化方針などの情報共有や意見交換を行った。

日本オリンピック委員会(JOC)から委嘱されたコーチ等については、JOCコーチアカデミー、新任コーチにはIJFアカデミーをそれぞれ受講させ、コーチとしての資質向上に努めた。

各大会視察、会議等の主な内容は以下のとおり。

- ① 4月 全日本選抜柔道体重別選手権大会を視察。会議では主にアブダビ世界選手権大会、アジア選手権大会、世界カデ選手権大会代表選考をはじめとする国際大会代表選手選考を決議した他、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会への推薦選手の選考や選手個人が受給する助成金対象者の選考を決議した。
- ② 5月 アブダビ世界選手権大会報告およびパリオリンピック代表選手の現状報告があった他、オリンピック後に強化システムに関する規程を改正するための素案について協議した。
- ③ 9月 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会を視察し、会議では主にジュニアを中心とした強化選手選考、10月に開催される世界ジュニア選手権大会代表選手選考を決議した。また、オリンピック後の代表選手動向に基づき、選手個人が受給する助成金対象者の入れ替えの決議、人選等検討小委員会から次年度のJOCスポーツ指導者海外研修員候補者推薦の報告があった。
- ④ 11月 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会を視察し、会議では主に強化選手選考、グランドスラム東京等の国際大会への派遣選手選考を決議した。また、新体制初回の会議でもあったため、強化システムに関する規程をはじめとする規程類の改正方針等が新委員長より示され、今後の強化委員会で審議、決議していくこととした。
- ⑤ 12月 グランドスラム東京を視察後、2月以降の国際大会派遣選手、全日本選抜柔道体重別選手権大会の出場選手選考を決議した。
- ⑥ 1月 会議では強化システムに関する規程等の改正案は次回会議までの継続審議とした他、優秀指導者表彰候補者、次年度事業計画を決議した。また、新体制の強化コーチに対面でコーチ研修会を実施した。

- ⑦ 2 月 会議において強化システムに関する規程等の規程類を決議した他、次年度の国際大会派遣選手選考を決議した。
- ⑧ 3 月 会議では 2 月に開催された全日本シニア柔道体重別選手権大会男子各階級 2 位の選手を講道館杯全日本柔道体重別選手権大会への強化委員会推薦とすることが決議された他、2026 年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に向けて出場資格付与の基準を見直すことを協議し、今後ワーキング・グループを設置して 6 月までに素案をまとめることとした。また、同日にオンラインにて強化連携フォーラムを実施した。
- ⑨ 年間を通じて JOC コーチアカデミーを 5 名のコーチが受講した。
- ⑩ 10 月の新体制移行後、新任コーチ 14 名が IJF アカデミーを受講した。

2. 国内大会視察、コーチ会議

各コーチ会議では、強化委員会に諮るための選手選考や素案を協議、資料を作成し、強化委員会に対する説明等をスムーズに行うことができた。また、今年度は 10 月に新体制となったこともあり、次年度の事業計画素案の検討はグランドスラム東京時のコーチ会議で行った。

国内大会を視察することで、選手の実状を把握することができ、強化選手選考の基礎資料作成、強化委員会時の説明などに役立てることができた。

コーチ会議、視察大会は以下の通り。

- ① 4 月 5～7 日 全日本選抜柔道体重別選手権大会（男女コーチ会議） 福岡国際センター 50 名
- ② 4 月 21 日 皇后盃全日本女子柔道選手権大会 横浜武道館 25 名
- ③ 4 月 29 日 全日本柔道選手権大会 日本武道館 49 名
- ④ 8 月 10～14 日 全国高等学校柔道大会 大分レゾナック武道センター 2 名
- ⑤ 8 月 20～23 日 全国中学校柔道大会 長野県立武道館 2 名
- ⑥ 9 月 6～8 日 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（男女コーチ会議） 高崎アリーナ 46 名
- ⑦ 11 月 1～3 日 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（男女コーチ会議） 高崎アリーナ 49 名
- ⑧ 12 月 3～8 日 グランドスラム東京（男女コーチ会議） NTC、東京体育館他 52 名
- ⑨ 3 月 19～20 日 全国高等学校柔道選手権大会 日本武道館 39 名
- ⑩ 上記の他、年間を通じてオンラインや合宿時等にもコーチ会議を実施した。

3. 国際総合競技大会（JOC 派遣大会）への派遣

今年度は強化事業としては最大目標となるオリンピックが 7 月にフランス・パリで開催された。代表選手は昨年度中に全て内定していたが、最終的な IJF のランキングを確認後、7 月に JOC へ推薦した。

大会では、選手村近隣に日本スポーツ振興センター（JSC）が設置したサポートハウスを活用し、調整練習実施の他、栄養サポートを受け、個人戦 14 階級中金メダル 3 個を含む 7 個のメダルを獲得、男女混合団体戦では前回東京大会と同じフランスとの対戦となり、惜しくも銀メダルとなった。

大会成績は以下の通り。

第 33 回オリンピック競技大会（2024／パリ）柔道競技 金 3、銀 2、銅 3、他 7

（女子）

48 kg 級 角田夏実（SBC 湘南美容クリニック）金メダル

52 kg 級 阿部詩（パーク 24）2 回戦敗退

57 kg 級 舟久保遥香（三井住友海上）銅メダル

63 kg 級 高市未来（コマツ）2 回戦敗退

70 kg級 新添左季（自衛隊体育学校）7 位

78 kg級 高山莉加（三井住友海上）5 位

78 kg超級 素根輝（パーク 2 4）7 位

（男子）

60 kg級 永山竜樹（SBC 湘南美容クリニック）銅メダル

66 kg級 阿部一二三（パーク 2 4）金メダル

73 kg級 橋本壮市（パーク 2 4）銅メダル

81 kg級 永瀬貴規（旭化成）金メダル

90 kg級 村尾三四郎（ジャパンエレベーターサービスホールディングス）銀メダル

100 kg級 ウルフアロン（パーク 2 4）7 位

100 kg超級 斉藤立（ジャパンエレベーターサービスホールディングス）5 位

（団体）

男女混合団体戦 銀メダル

4. 科学研究事業

強化委員会、男女監督等からの要請に応じて科学的観点よりサポートを行った。また、競技力向上に資する研究、情報提供を行った。主な活動は以下のとおり。

① 体力測定

強化選手の測定は今年度も日程調整が不調に終わり、実施できなかった。

また、全国中学校柔道大会個人戦出場選手の体力測定も、大会事務局の意向や会場の都合により測定を実施することができなかったが、2025 年度の福岡大会での実施に向けて大会事務局の方々と調整することができた。

小学生については全国少年柔道競技者育成事業で合宿を実施した地区でのみ測定を実施し、データ整理、フィードバックを行った。

② 映像情報分析活動

J S C ハイパフォーマンスサポートスタッフの協力を得て、選手団を派遣したシニアの 10 大会において試合撮影および編集、分析、選手団への情報提供等を行った。

③ 研究成果報告書の作成

これまでの研究活動をまとめた柔道科学研究 25 号を発行した。今年度も電子版のみとし、公式ウェブサイトで公開した。

④ 柔道競技パフォーマンス向上プロジェクト

予算逼迫の影響を受け、2024 年度は当該事業の実施を見送った。

⑤ 国内ポイントシステムの管理、運用

国内大会および日本選手団を派遣した国際大会におけるポイントを集計し、規程にうたわれている通り、選手選考の参考として活用してもらうため、データを監督、コーチへ報告した。

⑥ メダルポテンシャル要因の抽出に関する研究

予算逼迫の影響を受け、2024 年度は当該事業の実施を見送った。

5. 国際大会派遣（J O C 選手強化 N F 事業）

5 月にアラブ首長国連邦・アブダビで開催された世界選手権大会では、混合団体戦を含め、金メダル 4 個、メダル合計 10 個を獲得したものの、当初の目標を達成することはできなかった。

10 月にタジキスタン・ドゥシャンベで開催された世界ジュニア選手権大会では、混合団体戦を含め、

7個の金メダルを獲得した。昨年の成績には及ばなかったものの、当初の目標は達成することができた。

国際大会派遣の派遣数、成績は以下のとおり。

男子 シニア 9 件、ジュニア 6 件、計 15 件

女子 シニア 7 件、ジュニア 6 件、計 13 件

- ① 4/20～23 アジア選手権大会 金 8 銀 2 銅 4 他 2 (団体戦含む)
- ② 5/10～12 グランドスラム・カザフスタン 金 2 銀 0 銅 3 他 1
- ③ 5/19～24 世界選手権大会 金 4 銀 2 銅 4 他 9 (団体戦含む)
- ④ 6/21～22 パンナムオープン・リマ 金 1 銀 0 銅 0 他 0
- ⑤ 9/13～15 グランプリ・ザグレブ 金 1 銀 0 銅 0 他 2
- ⑥ 12/7～8 グランドスラム東京 金 13 銀 9 銅 16 他 18
- ⑦ 2/1～2 グランドスラム・パリ 金 3 銀 3 銅 5 他 9
- ⑧ 2/14～16 グランドスラム・バクー 金 10 銀 4 銅 3 他 2
- ⑨ 2/28～3/2 グランドスラム・タシケント 金 5 銀 4 銅 2 他 5
- ⑩ 5/18～19 スペインジュニア国際大会 金 2 銀 2 銅 2 他 2
- ⑪ 6/1～2 オーストリアジュニア国際大会 金 7 銀 1 銅 2 他 5
- ⑫ 8/28～9/1 世界カデ選手権大会 金 3 銀 1 銅 0 他 7 (団体戦含む)
- ⑬ 10/2～6 世界ジュニア選手権大会 金 7 銀 5 銅 2 他 5 (団体戦含む)
- ⑭ 1/25 ベルギー国際大会 (アンダー20) 金 5 銀 1 銅 0 他 1
- ⑮ 1/26 ベルギー国際大会 (オープン) 金 1 銀 1 銅 1 他 4
- ⑯ 3/7～9 グランプリ・アッパーオーストリア 金 2 銀 4 銅 6 他 7
- ⑰ 3/22～23 ブレーメン国際大会 金 2 銀 0 銅 2 他 3

6. 海外合宿 (JOC選手強化NF事業)

前半はオリンピックに向けて海外での合宿に選手を派遣し、外国人対策だけでなく、国際情勢の把握にも努めた。後半は若手選手を中心に国際経験、外国人と組み合わせることを目的として派遣した。

ジュニアにおいては国際大会に伴って行われる国際合宿に参加し、大会での課題や反省点の改善はもちろんのこと、ジュニア選手にとって外国人選手と接すること、海外での生活における日本との違いを学ぶことで競技力だけでなく精神力の強化にもつながった。

海外合宿地、派遣人数は以下のとおり。

男子 シニア 1 件、ジュニア 4 件、計 5 件

女子 シニア 2 件、ジュニア 3 件、計 5 件

(大会に伴って行われる合宿を含む)

- ① 4/8～12 韓国合宿 男子 3 名
- ② 6/8～16 ポレチ合宿 (クロアチア) 女子 6 名
- ③ 2/3～7 グランドスラム・パリ国際合宿 女子 10 名
- ④ 5/20～25 スペインジュニア国際合宿 男子 9 名／女子 3 名
- ⑤ 6/3～8 オーストリアジュニア国際合宿 男子 10 名／女子 11 名
- ⑥ 7/15～20 日韓競技力向上交流合宿 男子 27 名
- ⑦ 1/27～30 ベルギー合宿 女子 10 名
- ⑧ 3/24～28 ブレーメン国際合宿 男子 10 名

7. 国内強化合宿（JOC選手強化NF事業）

シニアにおいては、7月まではパリオリンピックに向けた代表選手を中心とした強化および調整合宿を実施した。12月以降はグランドスラム東京、次年度の世界選手権に向けた強化を目的とした合宿を実施した他、IJFのルール改正に伴う男女合同練習会を12月に実施し、審判委員会の協力を得て、新ルールの説明および実際に組むことでの確認を行った。

また、オリンピック代表に限定して全体合宿の合間に個別分散合宿を実施した。

ジュニアにおいては、8月の世界カデ選手権大会、10月の世界ジュニア選手権大会に向けた強化合宿の実施、外国人と練習のできる機会を設けるため、グランドスラム東京後の国際合宿にあわせて合宿を実施した。また、合宿で集合した時だけでなく、C・D強化選手に対して年間を通じて柔道に対する意識向上、基礎知識を身につけてもらうことを目的とし、オンライン講習を6回実施した。

12月、2月に競技者育成合宿として全国10地区から推薦された小学生を対象とした合宿を実施し、柔道の基本技術だけでなく礼法や栄養等の座学講習も実施した。

合宿地、人数は以下のとおり。

男子 シニア 5件、ジュニア 6件、計 11件

女子 シニア 4件、ジュニア 4件、計 8件

男女C・D強化選手オンライン講習会 6件

小学生 2件

- ① 4/30～5/4 第1回男子（NTC） 49名
- ② 7/8～13 第2回男子（NTC） 19名
- ③ 3/5～8 第3回男子（NTC） 93名
- ④ 通年 男子個別分散合宿 延 201名
- ⑤ 8/21～24 第1回男子ジュニア（国士舘大学、國學院大學他） 9名
- ⑥ 9/13～17 第2回男子ジュニア（NTC） 16名
- ⑦ 10/24～27 第3回男子ジュニア（NTC） 39名
- ⑧ 11/12～16 第4回男子ジュニア（NTC） 27名
- ⑨ 11/11～17 日韓競技力向上交流合宿（NTC） 27名
- ⑩ 12/15～19 第5回男子ジュニア（NTC） 37名
- ⑪ 4/30～5/5 第1回女子（NTC） 79名
- ⑫ 6/25～29 第2回女子（NTC） 46名
- ⑬ 通年 女子個別分散合宿 延 121名
- ⑭ 7/23～26 第1回女子ジュニア（福岡武道館他） 22名
- ⑮ 9/14～17 第2回女子ジュニア（NTC） 20名
- ⑯ 12/7～13 第3回女子ジュニア（講道館） 25名
- ⑰ 2/8～11 第4回女子ジュニア（NTC） 42名
- ⑱ 12/28 男女合同練習会（NTC） 39名
- ⑲ 4/12 第1回C・D強化選手オンライン講習会（アンチ・ドーピング、減量） 63名
- ⑳ 6/24 第2回C・D強化選手オンライン講習会（栄養） 66名
- ㉑ 7/12 第3回C・D強化選手オンライン講習会（水分補給） 65名
- ㉒ 10/25 第4回C・D強化選手オンライン講習会（トレーニング） 75名

- ㉓ 1/10 第5回C・D強化選手オンライン講習会（鈴木監督講話） 68名
- ㉔ 2/27 第6回C・D強化選手オンライン講習会（トレーニング） 75名
- ㉕ 12/21～23 第1回競技者育成合宿（講道館） 57名
- ㉖ 2/22～24 第2回競技者育成合宿（講道館） 56名

8. 全国少年柔道競技者育成事業（JSCスポーツ振興くじ助成事業）

本連盟競技者育成プログラムに基づき、将来有望な選手の発掘および育成を目的とし、一貫指導システムとして強化選手制度につなげるべく、小中学生を対象に、今年度は10地区のうち7地区で小学生、3地区で中学生合宿を実施し、小学生565名、中学生195名、指導者216名が参加した。各合宿における指導内容が統一できるよう、本連盟から技術指導のための講師の他、地区からの要望を受け、栄養やトレーニング等、座学の講師も派遣し、成長段階にある選手にとって必要とされる講習を実施した。

今年度は諸事情により2地区で事業自体を実施できなかったため、統一した内容で小学生の育成を推進すべく働きかけていく。

各事業は以下の通り。

- ① 7/27～28 中国地区小学生合宿（鳥取県立武道館） 97名
- ② 9/14～16 東北地区小学生合宿（秋田県立武道館） 119名
- ③ 9/21～23 北信越地区小学生合宿（県営富山武道館） 95名
- ④ 10/19～20 四国地区小学生合宿（徳島県立中央武道館） 78名
- ⑤ 10/25～27 北海道中学生合宿（札幌大学） 51名
- ⑥ 11/2～4 近畿地区小学生合宿（ロート奈良第二武道場） 129名
- ⑦ 11/9～10 九州地区小学生合宿（久留米アリーナ） 145名
- ⑧ 1/11～13 北海道小学生合宿（北海きたえーる） 52名
- ⑨ 1/18～19 東海地区中学生合宿（岐阜メモリアルセンター） 85名
- ⑩ 2/8～9 九州地区中学生合宿（久留米アリーナ） 125名

以上

(7) 国際委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回 (1月23日)
2. その他、強化委員会派遣外の国際大会 (自費参加) 等についてメールでの審議、報告等

【活動報告】

1. 国際委員会派遣

(1) アジア柔道連盟 (JUA) ヘッド審判理事である大迫明伸氏を、アジアで開催された以下の国際大会等に大会審判責任者や審判試験の試験官、セミナーの講師等として派遣した。

- ①アジア柔道選手権大会 (4月20日～23日、香港)
- ②東南アジア柔道選手権大会 (5月30日～6月2日、インドネシア)
- ③アジアカップカデ・ジュニア (7月4日～7日、カザフスタン)
- ④アジアオープン (7月18日～19日、チャイニーズタイペイ)
- ⑤カデ・ジュニア アジアカップ (8月10日～11日、マカオ)
- ⑥カデ・ジュニア アジアカップ (8月18日～19日、香港)
- ⑦アジアカデ・ジュニア選手権大会 (8月29日～9月1日、韓国)
- ⑧アジアオープン (11月9日～10日、香港)
- ⑨IJF審判コーチングセミナー (12月14日～15日、トルコ)
- ⑩チャイニーズタイペイ審判セミナー (2月15日～16日、チャイニーズタイペイ)
- ⑪グランドスラム・タシケント (2月28日～3月2日、ウズベキスタン)
- ⑫香港審判セミナー (3月15日～16日、香港)

(2) 日本武道館が5年ぶりに実施した日本武道団派遣 (ベトナム) において、11月6日から12日にかけて6名の指導者を派遣した。現地では演武のほか、日本人学校での柔道技の紹介や現地道場における指導も行った。

2. 国際交流派遣

IJFが主催する世界柔道選手権大会や審判・コーチングセミナー、グランドスラム・パリ等に、細川伸二特別顧問、井上康生特別顧問らを派遣した。

派遣期間中は、グランドスラム等の国際大会における大会運営方法に加え、パリオリンピック後のルール改正に向けて、IJF理事や各国役員との幅広い意見交換や議論を行った。

3. 受入事業

(1) IJFアカデミー (9月24日～10月1日、講道館)

IJFアカデミーの実技講習を講道館で開催した。2022年より毎年開催しており、今回で3回目の開催となった。今回は日本人8名を含む計49名が参加した。

(2) 海外ナショナルチーム受入

海外の柔道連盟から日本での練習希望が多く届いており、多くの受入要望に応えるため、大学、実業団と連携をとり、2024年度は31国・地域から延べ905名の受け入れを行った。

(3) 国際合宿 (12月9日～19日、講道館)

グランドスラム東京の後に国際合宿を開催した。合宿期間は2週に分けて12日間とし約21ヵ国・地域より約582名の海外選手が参加をした。日本からも大学や実業団を中心に多くの選手が集まり、連日熱のこもった練習が行われた。また合宿期間中には男子ジュニア選手を中心とした

練習試合なども行った。

(4) ウクライナ招へい事業

助成金を活用して、2回に分けて以下の通り行った。

①10月14日～11月1日 コーチ・役員4名、男子16名、女子9名

練習場所：講道館、修徳高等学校、足立学園高等学校、天理大学・高等学校・中学校

②12月6日～20日 コーチ1名、男子2名、女子2名

練習場所：講道館（国際合宿）

4. 国際育成事業

新型コロナウイルスの影響で2020年度以降実施していなかった学生ボランティア海外派遣事業を実施した。派遣に先立ち、9月に講道館において2泊3日の派遣前研修を実施した。2025年2月にインドネシアに4名、ブータンに3名の学生を約10日間派遣した。

派遣期間中、学生は技の指導の他、審判規程の説明なども行った。

5. 国際貢献事業

認定特定非営利活動法人 JUDOs 及び外務省の協力を得て、以下の通りリサイクル柔道衣/畳を供与した。

●柔道衣 1,218 着(モンゴル、ウズベキスタン、ミャンマー、アフガニスタン、シエラレオネ、トーゴ、インドネシア、ウクライナ、コモロ)

●柔道畳 245 枚(ミャンマー、シエラレオネ)

また、リサイクル柔道衣の国内輸送費を負担し、海外へ支援する柔道衣の確保を行った。

(8) 医科学委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 オンライン2回(4月11日、1月30日)、メール審議(2月17日)
2. 正副委員長会議 メール審議2回(9月18日、9月30日)
3. アンチ・ドーピング部会 オンライン1回(11月13日)

【活動報告】

1. 医科学委員会の開催(オンライン)と主な議題

(1) 4月11日開催

- ①2023年度事故発生状況について
- ②2024年度事業計画と予算について
- ③医科学委員会研究医費使用ガイドラインについて
- ④インターハイでの適切な計量日程について
- ⑤協力委員の体制整備について

(2) 1月30日開催

- ①2024年度事業報告と決算について
- ②アンチ・ドーピング活動について
- ③強化選手の医学的支援や怪我の予防、コンディショニングについて
- ③女性アスリートの健康課題と委員会としての対応について
- ④国内の救護体制の整備について

協力委員の体制整備、地方での救護担当者講習会

2. 柔道医科学研究事業と各種啓発活動

(1) テーマ別担当ごとの研究課題を計画通り実施し、各種学会・研究会等で報告した。

担当者	プロジェクト名
井汲 彰	柔道による肘関節外傷に関する研究(第2期)
柵山尚紀	女子柔道選手におけるコンディショニングにおける講習会による意識変革の検討
柵山尚紀	アンチ・ドーピング講習の効果の検討
紙谷 武	転倒外傷予防に関する研究
神谷宣広	柔道衣の安全性等に関する研究
福士純一	止血手技の調査研究
木内正太郎	絞め技による意識消失の病態と対応に関する研究
田辺誠	学童期における柔道競技が肘関節に及ぼす影響とその原因究明
佐々木英嗣	柔道選手の膝前十字靱帯再建術における移植腱選択に関する調査
松永大吾	七大学戦アーカイブズを用いた絞め落ちの研究(3年目)
稲川郁子	女性の生涯柔道の障壁に関する研究:競技柔道引退後の女性柔道家の実態から

(2) 成果発表

原著論文

©Ikumi A, Sasaki E, Sakuyama N, Mikami Y. ; Incidence of Elbow Injury Patterns in Japanese Adolescent Judo Players: Analysis from a Nationwide Insurance Database. Sports 2024, 12, 289.

©Sakuyama N, Fujita N, Ikumi A, Miura M, Nagahiro S, Mikami Y: Efficacy of Health Surveillance and Polymerase Chain Reaction Testing in Judo During the COVID-19 Pandemic. Cureus. 2024 Apr 9;16(4):e57898

◎寺崎綾音

10代女子大学生アスリートの月経に対する思い

獨協医科大学大学院看護学研究科博士前期課程 修士論文

学会での口演

◎第21回日本スポーツ整形外科学会

・教育研修講演 井汲 彰：柔道競技のメディカルサポート～日本代表におけるチームドクター・トレーナー活動の現状と課題 9月13日

紙谷 武：柔道における外傷・障害の治療法 9月13日

・口演 佐々木英嗣、木村由佳、對馬誉大、坂本祐希子、津田英一、石橋恭之：柔道選手へのACL再建術に対する移植腱選択と治療成績. 9月13日

◎第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会

・口演 柵山尚紀、井汲 彰、大江裕一郎、三上靖夫：全日本柔道連盟医科学委員会のアンチ・ドーピング啓発活動について. 11月16日

寺崎綾音、柵山尚紀、井汲 彰、佐々木英嗣、加嶋洋子、鈴木なつ未、三上靖夫：女子柔道選手における月経とコンディショニングに関する啓発動画作成. 11月16日

井汲 彰、佐々木英嗣、柵山尚紀、三上靖夫：中高生柔道選手の肘関節外傷 日本スポーツ振興センターのデータベースを用いた検証. 11月17日

(3) 女性アスリートの健康課題と啓発活動

啓発動画の作成とこれを利用した啓発活動

(4) 広報誌「まいんど」を通じた啓発活動

40号：本年度の医科学研究の紹介

41号：トンスランス感染症への注意喚起

42号：医科学研究会報告

43号：重大事故総合対策委員会との連携について

3. 第11回柔道医科学研究会の開催

(1) 神谷宣広医科学研究会会長のもと、天理大学において9月21日に開催（参加者190名）

(2) 会長講演（神谷会長）：「国際柔道連盟（IJF）医科学委員の役割」

文化講演（細川伸二全柔連特別顧問）：「国際柔道連盟（IJF）と日本柔道について—フランス・日本・天理柔道の関係—」

(3) シンポジウム：「さらなる柔道の発展にむけて—医科学・審判・強化の立場から—」

演者：三上靖夫医科学員会委員長「医科学委員会が柔道の発展になすべきこと」

稲川郁子医科学員会特別委員「柔道における「マイッタ」を考える—嘉納治五郎は絞技と関節技をいかに考えていたか—」

細川伸二特別顧問「魅力的な柔道に向けて—2024パリオリンピック後のルール改正—」

(4) パリオリンピックセッション

井汲 彰【柔道日本選手団帯同報告】2024パリオリンピック2024でのメディカルサポート

立石智彦【パリオリンピック柔道競技レビュー】パリオリンピック2024柔道競技における

(5) 一般演題 17 題

4. 救護担当者講習会の開催

第1回 6月30日福岡医健・スポーツ専門学校

参加者 32 名（柔道整復師 23 名、看護師 4 名、医師 3 名、医療資格なし 2 名）

座学講師：宮崎誠司、井汲 彰、田邊 誠先生（オンラインにて講演）

実習講師：福士純一、木内正太郎先生ほか

第2回 9月22日天理大学

参加者 65 名（柔道整復師 47 名、看護師 5 名、医師 5 名、その他 8 名）

実習講師：宮崎誠司、田邊 誠、柵山尚紀、井汲 彰、生駒久視、木田将量ほか

第3回 1月27日TKP新大阪駅前カンファレンスセンター

参加者 10 名（柔道整復師 9 名、医師 1 名）

実習講師：田邊 誠

5. 安全講習会の開催（医科学委員会主催以外の会で委員が講師を担当）

日付	会議名	主催者	講師	講義テーマ
4月13日	神奈川県高等学校体育連盟 安全講習会	神奈川県高体連	宮崎誠司	柔道競技における安全面の指導方法（頭部・頸部 外傷予防、熱中症予防等）
9月2日	公認指導者（C 指導員）養成講習会	滋賀県柔道連盟	三上靖夫	安全管理・指導 I
10月26日	公認指導者（C 指導員）養成講習会	静岡県柔道協会	稲川郁子	安全管理・指導 I
10月28日	公認指導者（B 指導員）養成講習会	滋賀県柔道連盟	三上靖夫	安全管理・指導 II
10月31日	滋賀県高体連柔道専門部安全講習会	滋賀県高体連 柔道専門部	三上靖夫	頭部外傷
12月7日	公認指導者（B 指導員）養成講習会	静岡県柔道協会	稲川郁子	安全管理・指導 II
3月11日	第2回柔道特別講習「安全講習会」	警察庁	三上靖夫	頭部外傷の概要と事故防止

6. アンチ・ドーピング啓発活動

- ・ 4月 ジュニア選手へのアンチ・ドーピング講義
- ・ 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）とミーティング
- ・ 7月 ID 柔道アンチ・ドーピング講義
- ・ 8月 JADA承認 Educator 取得・更新
- ・ 12月 グランドスラム東京・アウトリーチ活動
- ・ 3月 強化選手アンチ・ドーピング講習

6. 大会での救護担当医師派遣

日程	大会名	救護医師数	救護看護師
4月21日	全日本女子柔道選手権大会(横浜武道館)	3名	1名
4月29日	全日本柔道選手権大会(日本武道館)	3名	1名
6月1日	全日本柔道形競技大会(講道館)	1名	0名
8月4日	全国高等学校定時制通信制柔道大会(講道館)	2名	0名
8月25日	全日本小学生柔道育成プロジェクト(横浜武道館)	1名	1名
9月7-8日	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会(高崎アリーナ)	4名	1名
11月2-3日	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(高崎アリーナ)	14名	2名
12月7-8日	グランドスラム東京(東京体育館)	5名	2名
12月14日	文武両道杯全国高校柔道大会(講道館)	2名	0名
2月22-23日	全日本シニア柔道体重別選手権大会(大浜だいしんアリーナ)	3名	0名
		3名	0名
3月19-20日	全国高等学校柔道選手権大会(日本武道館)	4名	1名
		4名	1名
3月22-23日	柔道マガジン杯全国中学生柔道大会(横浜武道館)	3名	1名
		3名	1名

(9) アスリート委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 2回（6月21日、1月16日）
2. 委員長副委員長会議 2回（5月9日、6月29日）
3. ワーキング・グループ 1回（11月25日）
4. 意見交換会 2回（8月12日、9月17日）
5. 懇親会 2回（8月12日、9月17日）
6. 選考委員会 1回（10月24日）

【活動報告】

1. イベント関連事業

(1) 「2024年全日本選抜柔道体重別選手権大会」チャリティサイン会の実施

「令和6年能登半島地震」の復興支援活動の一環として、チャリティサイン会を実施した。サイン会の運営を大野陽子委員が担当し、2020東京オリンピック出場選手および2024パリオリンピック代表内定選手（当時）総勢8名の協力を呼び掛けた。（敬称略）

4月6日(土)	角田夏実・芳田司・橋本壮市・斉藤立
4月7日(日)	阿部詩・高市未来・阿部一二三・ウルファロン

(2) 「令和6年全日本柔道選手権大会」企業タイアップ企画実施

企業タイアップとして、小学生を対象とした観戦企画を実施し、運営に山部佳苗副委員長・七戸龍委員が携わった。当日は参加者への解説やバックヤードツアー等を実施した。

(3) 日本代表選手団のプロフィールカード制作

パリオリンピックの告知および選手とファンの交流ツールとして、A強化選手（当時）14名のプロフィールカードを制作した。

(4) 各種柔道教室およびイベントへの講師派遣

各種柔道教室およびイベントの実施に際して、講師の選定を行い、総勢18名の講師を派遣した。派遣講師は以下の通り。（敬称略）

5月4日(土)	全国少年柔道大会（合同錬成）	吉田優也・飯田健太郎・影浦心・芳田司・ヌンイラ華蓮
6月2日(日)	ガーヤちゃん杯争奪少年柔道大会	大野陽子
8月4日(日)	全日本少年少女武道（柔道）錬成大会	石原樹・ベイカー茉秋・濱田尚里・山部佳苗
8月25日(日)	全日本小学生柔道育成プロジェクト	橋本壮市・高市未来
9月22日(日)	マルちゃん杯全日本少年柔道大会	永山竜樹・舟久保遥香
11月23日(土)	ロゴスランドカップ	中村美里・山部佳苗・高市未来・丸山城志郎

(5) 「グランドスラム東京2024」各種イベント実施

①アスリート委員会 presents 「AJJF AWARDS 2024」

選手と柔道ファン、所属団体や企業、メディア、スポンサーなど、柔道に関わる全ての方をつなぐ機会創出を目指して企画・実施した。表彰部門および受賞者は下記の通り。（敬称略）

●「MV J (Most Valuable Judoka)」部門

2024 年、最も輝かしい成績を収めた選手として、パリオリンピック・パリパラリンピックの金メダリスト 5 名を表彰。

角田夏実（女子 48 kg 級）阿部一二三（男子 66 kg 級）永瀬貴規（男子 81 kg 級）

瀬戸勇次郎（J2-男子 73kg 級）廣瀬順子（J2-女子 57kg 級）

●「Rising Star」部門

柔道界の未来を担う選手たちを奨励するため、2024 年 8 月にペルー・リマで開催された「世界カデ選手権大会」の日本代表選手団および 10 月にタジキスタン・ドゥシャンベで開催された「世界ジュニア選手権大会」の日本代表選手団を表彰。当日は、選手団を代表して、同大会の監督を務めた各務耕司男子監督、野瀬英豪女子監督が登壇。

●「Lifetime Achievement」部門

長年日本代表として活躍した選手で 2024 年に引退を表明した選手や関係者を表彰。

芳田司氏（東京オリンピック個人戦銅メダリスト）2024 年 7 月に引退を表明。

高市未来氏（東京・パリオリンピック団体戦銀メダリスト）2024 年 10 月に引退を表明。

新添左季氏（パリオリンピック団体戦銀メダリスト）2024 年 12 月に引退を表明。

天野安喜子氏（国際審判員）2024 年 10 月グランドスラム・アブダビにて国際審判員を引退。

七戸龍氏（アスリート委員）5 期 10 年にわたるアスリート委員としての活動を表彰。

②アスリート委員会 presents サイン会

大会期間中、会場内にて、抽選で当選した 80 名を対象としたサイン会を実施した。サイン会参加者は下記の通り。（敬称略）

12 月 7 日（土）	角田夏実・阿部詩・新添左季・高山莉加・阿部一二三・ウルフアロン
12 月 8 日（日）	古賀若菜・大森生純・足達実佳・嘉重春樺・中村太樹・武岡毅・田中龍雅

③バックヤードツアー実施

「ディスカバリーBOX」購入者を対象として、表彰台・ミックスゾーン・練習会場等を見学するバックヤードツアーを実施した。

（6）「令和 6 年能登半島地震」復興支援イベント実施

3 月 23 日（日）に石川県・志賀町総合体育館にて「令和 6 年能登半島地震」復興支援イベントを実施した。総勢 7 名のアスリート委員が参加し、未経験者・経験者向けの柔道教室の他、仮設住宅や被災した病院への訪問を通して交流を図った。参加者は下記の通り。（敬称略）

吉田優也・七戸龍・海老沼匡・中村美里・山部佳苗・高市未来・田嶋剛希

(10) コンプライアンス委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 2回(7月18日、11月13日)

【活動報告】

1. コンプライアンス委員会

- ・前回開催の委員会以降に実施したコンプライアンス講習について報告を行った。
- ・倫理・懲戒規程に基づいて調査を実施したコンプライアンス事案について調査結果を報告するとともに、実施中ないし実施予定のコンプライアンス事案について報告を行った。
- ・上記の調査実施済事案に関する調査結果報告においては、2件について当該調査結果を会長に報告することを委員会で承認した。

2. コンプライアンス強化事業

コンプライアンス・ホットラインの存在を公式ウェブサイトや大会プログラム等に掲載して周知を図り、一層の利用促進を呼びかけた。また大会プログラムに、「柔道界から暴力・パワハラ・セクハラをなくそう！」(連盟作成リーフレット)を掲載してコンプライアンス意識の醸成・向上を図った。

3. コンプライアンス講習の実施

下記の通りコンプライアンス講習を実施した。

- ①広島県(6月30日、対面。講師：本郷委員長)

4. コンプライアンス調査の実施

コンプライアンス・ホットラインへの通報事案等に対し、コンプライアンス委員会委員(含む委員長、副委員長)及び事務局長等による調査チームを組成して調査を実施した。

調査結果は報告書にまとめてコンプライアンス委員会を經由して会長に提出され、倫理・懲戒規程に基づき懲戒委員会での審議に付された事案が1件あった。なお、次年度において調査継続中の事案が1件ある。

(11) 重大事故総合対策委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 4回 (9月9日、11月7日、12月1日、3月24日)
2. 部会 メール対応

【活動報告】

1. 年度初めの事故防止・安全指導の周知徹底
 - (1) 小・中・高校生の事故防止・安全指導
 - ・Google フォームを活用し、安全講習会の実施報告に一本化して効率化を図った。
 - (2) 年度初めの事故防止啓発強化期間の設定
 - ・強化期間 (4月～7月) の事故報告 10 件で初心者が死亡にいたる重大事故が発生した。
2. 第7回全国安全指導員連絡会の開催
 - (1) 12月1日にオンライン形式で第7回全国安全指導員連絡会を以下の内容で実施した。
 - ・「重大事故の最近の動向」 松永大吾委員の講習
 - ・全国柔道事故被害者の会代表 倉田久子氏の講演
 - ・日本ラグビー協会における安全への取組 田村謙太郎氏 (信州大学嘱託講師) の講演
 - ・柔道事故防止のための安全管理規程について 磯村委員長
 - (2) オンライン形式で各都道府県から5名までの参加として約100名が参加した。
 - (3) 各都道府県へ「第7回全国安全指導員連絡会」のアンケート調査を実施した。
 - ・37都道府県71名より回答有
3. 都道府県柔連の安全講習会の実施報告の内容分析及び報告書の作成
都道府県柔連の安全講習会の実施報告の内容を分析して報告書にまとめた。
4. 事故防止・安全指導の資料集の作成
危険な場面映像資料 (第1巻) の修正版の作成
*国内における「少年大会特別規程」変更による修正及び表記統一の修正
5. 安全指導資料の増刷と配布
「柔道の安全指導」第6版を3,000部増刷し、各都道府県の各種講習等で配布した。
6. 事故調査の実施
本年は重大事故についての調査は実施しなかった。

(12) 女子柔道振興委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 3回(4月16日、9月17日、1月17日)
2. 委員長・副委員長・主査会議 3回(4月24日、4月26日、7月10日)

【活動報告】

1. 女子柔道振興委員会

会議では2024年度の事業計画に基づき、以下内容を議論・協議した。

- ①女子柔道意見交換会の開催
- ②女子柔道キャリアアップセミナーの開催
- ③COMEBACK 女子柔道プロジェクトの開催
- ④JJ Voice コラムの運営
- ⑤各都道府県における女性役員の登用推進のための状況調査
- ⑥各都道府県における女子委員会等の設置に関する状況調査
- ⑦柔道における女性の活躍推進プランに沿った取り組み推進、見直しの検討
- ⑧女子柔道選手の健康問題に対する取り組みの検討
- ⑨各地における託児サービスに対する取り組み状況調査
- ⑩次年度への課題抽出

各事業を計画通りに進めると共に、各都道府県における女性役員の登用状況、女子柔道に関する委員会等の設置状況を調査し、評議員会・理事会等で結果を公表して女性役員登用や女性委員会の設置を促した。前年度と比較すると女性役員は10県で増加が見られ全国の総数は140名となった。女子柔道に関する委員会は、新たに2県で設置され31都道府県において設置済みとなった。

2. 女子柔道意見交換会

11月16日にオンラインにより女子柔道意見交換会を実施した。42都道府県から60名の参加があり活発な意見交換を行うと共に、女子柔道の機運を高める機会となった。柔道における女性の活躍推進プランにも明記されている女性リーダーの育成につながるよう、石井淳子副会長から「柔道界における女性の活躍推進と日本柔道の発展に向けて」をテーマとした講演を行った。また、「都道府県下での女子柔道振興事業における課題と対策」をテーマとしたグループディスカッション、全体ディスカッション等を行った。

3. 女子柔道キャリアアップセミナー

7月13日にオンラインで女子柔道キャリアアップセミナーを開催し、全国21大学から約300名が参加した。「女子選手の体調管理～みんなで真剣に生理の話をしよう～」とのテーマでの講演、指導者資格、審判員資格等それぞれの説明を行った。オンライン形式を採用することで全国各地からの参加者を得ることができた。

4. COMEBACK 女子柔道プロジェクト

様々な理由で柔道から離れた女子柔道経験者や初めて柔道に関わる女性をターゲットとした各都道府県が主催する各種イベント(女性柔道交流会、女子柔道フェスタ等)を公募し、宮城県、山形県、新潟県、岡山県、山口県、関東地区・東京都、東海地区・静岡県、以上7件を採択し、補助金による事業支援を行った。

5. 公式ウェブサイトを利用した女子柔道に関する情報、JJ Voice コラムの展開

JJ Voice コラムを定期的なペースで更新し 21 名のコラムを掲載した。その他、COMEBACK 女子柔道プロジェクトの公募周知および開催報告書の掲載を行った。

(13) 指導者養成委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 4回（5月16日、12月23日、1月21日、3月28日）
2. 委員長副委員長会議 4回（5月10日、11月9日、8月7日、2月7日）2/7は対面

【活動報告】

1. B指導員養成講習会・モニタリングの実施
都道府県において31回のB指導員養成講習会を行った。運営費助成金を補助するにあたり、報告書、精算書等の確認を行った。モニタリングは実施しなかった。
2. Cおよび準指導員養成講習会・モニタリングの実施
都道府県において42回のC指導者養成講習会を行った。運営費助成金を補助するにあたり、報告書、精算書等の確認を行った。モニタリングは1件、実施した。
3. 全国指導者資格研修会
実施はなかった。
4. 公認指導者資格の取得推進のための広報活動
公認指導者資格の取得を推進するための広報活動を各種事業で（セミナー、大会等）で実施する予定だったが、中止とした。
5. 指導者養成カリキュラム改善に関する事業
2025年度からの改正、運用に向け作成を進めている。
4/25 フランス指導法講義と発育発達障害柔道情報交換に出席をし必要課題を抽出し2025年度カリキュラム作成の参考とした。
6. 中央指導者資格審査委員会
A指導員の認定を行い、対象者68名中、60名が合格し、8名が不合格となった。
7. 日本武道館との共催事業
全国中学校（教科）柔道指導者研修会は、19名が参加して充実した内容で実施できた。2025年度は全国へ研修内容の周知徹底を行い参加者増加に努めていく。
8. 大学生対象のC指導員養成講習会
関東学生柔道連盟、関西学生柔道連盟主管による講習会を各1回行った。
9. C指導員養成校制度
前期23名、後期15名の計38名の受験があり、合格者は16名であった。
10. A指導員養成講習会
（1）2024年度同様にオンデマンド講習、同時双方向型オンライン講習、対面講習（3日間）で実施した。対面講習は東京都、福岡県の2か所で開催した。
（2）79名が受講し、集合講習まで終了した68名が検定試験を受け、レポート提出をした。
11. スポーツ庁委託事業「武道等指導充実・資質向上支援事業」
（1）安全で楽しい柔道授業ガイドの増刷を行った。安全な授業ができるよう継続的に検討していく。
（2）2025年度も委託申請を行い、各事業を進めていく。

（１４）革新的パスウェイ特別委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回（5月27日）

【活動報告】

1. 全体会議

長期育成指針に基づき、提示している課題、柔道における革新的パスウェイのシステムに必要な機能、パフォーマンス、制約条件などを明確に定義する。「柔道の成功における偶発的要素の最小化」に基づいた青少年の発掘・育成システムの構築の提案は非常に挑戦的であるため、他国のシステムに詳しい委員と批判的思考で意見を交わす機会を設けた。

異なる物事同士の関連性をうまく見つけ出すことや、新しい組み合わせを創り出すための議論を行った。

2. システム構築のための調査と分析

柔道における革新的パスウェイのシステム構築に必要な根拠、「柔道の成功における偶発的要素の最小化」を支える科学的根拠はまだ十分ではないため、現状のシステムの問題の抽出、原因の探求、解決策の提案に必要な情報を調査し、収集する。蓄積した情報から分析を行った。

(15) 全国少年柔道協議会（少柔協）中央委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 2回（5月10日、1月14日）

【活動報告】

1. 小学生への適切な指導法の提言

長期育成指針の課題を踏まえ、ステージ1（0～5歳）、ステージ2（6～11歳）に該当する年少者、小学生へのあるべき指導について検討した。

2. こどもの安全な転び方研修会

指導者に対して、こどもの安全な転び方に関する指導法の研修会を6月に東京（講道館）、7月に大阪（大阪講道館）で開催した。また、1月には都内の保育園において「未就学児の転倒事故防止に関する指導者研修会」を実施した。それぞれの研修会に講師を派遣した。

3. 転び方教室

こどもを対象とした、転び方教室を11月に滋賀県、12月に大阪府で開催をした。それぞれの転び方教室には講師の他、オリンピックメダリストも派遣をした。

4. 小学校（授業）への働きかけ

秋田県柔道連盟、和歌山県柔道連盟、島根県柔道連盟と連携して、小学校教員、外部指導者向け講習会を実施した。また、東京都台東区、杉並区、小金井市、八王子市等で教員向け転び方指導講習会を実施し、指導法の改善を図った。

5. 「白石基金」表彰

都道府県柔道連盟より9団体の推薦があり、運営選考委員会にて審議し承認された。

表彰団体となった各道場には都道府県柔道連盟を通して奨励金10万円と表彰盾を贈呈した。

(16) 事務局普及事業

【会議の開催】

1. 道場わっしょいワーキング・グループ 3回 (4月10日、5月17日、9月3日)
2. もう一度柔道プログラムワーキング・グループ 1回 (5月12日)
3. 寝技錬成会ワーキング・グループ 1回 (11月26日)
4. 渋谷区防災キャラバンイベントの出展ワーキング・グループ 2回 (9月19日、3月27日)
5. 矯正局普及事業ワーキング・グループ 3回 (4月16日、9月17日、3月7日)
6. 公認転倒外傷予防指導員資格ワーキング・グループ
4回 (8月26日、9月17日、10月25日、11月24日)

【活動報告】

1. 道場わっしょい
9月28日・29日の2日間にわたり、愛媛県武道館にて実施した。初日は柔道教室を開催し、愛媛県内の道場に通う小学生を中心に約100名が参加した。
ACP (アクティブ・チャイルド・プログラム) を取り入れたウォーミングアップから柔道の技術指導まで、子どもたちは終始笑顔で活気にあふれていた。
翌29日には、親子の絆を深めるとともに、道場間の交流を促進し、少年柔道の発展と普及を目的として道場対抗の団体戦を実施し、総勢186名が参加した。本大会は、通常の試合とは異なり、受身・礼法・寝技補強レースなど、日常の稽古内容に基づいた種目を導入。先鋒から大将まで異なる競技内容で構成し、選手一人ひとりが個性を発揮できる場となった。
来年度は、9月に愛媛県、福岡県、10月に青森県の3か所で開催を予定している。
2. 寝技錬成会
1月26日に第3回寝技錬成会を開催。昨年度までは対象を大学生のみに限定していたが、今年度からは「一般の部」および「40歳以上の部」を新設し、より幅広い層に向けた開催となった。
階級区分については、一般の部は男女ともに4階級、40歳以上の部は男女ともに3階級で実施し、総勢180名が参加した。
大会終了後には参加者を対象にアンケートを実施し、ルールや階級設定などに関する意見を収集した。来年度以降は、参加カテゴリーのさらなる拡充を図るとともに、柔道から離れてしまった方々も参加しやすいような錬成会を目指す。また、「寝技錬成会」から「寝技大会」への移行を見据えた準備も進めていく。
3. メダリスト中学校武道(柔道)授業支援事業
柔道専門の教員が不在の公立中学校を対象に、保健体育科の武道(柔道)授業へオリンピックメダリストを講師として派遣した。今年度は、各都道府県からの公募により選定された計43校で授業を実施。授業では、礼法・受身・基本技などの指導をメダリストが直接行い、生徒には柔道の基礎を楽しく学ぶ機会を、教員には柔道指導技術の向上を目的として実施された。授業実施後には各校にアンケートを実施し、「柔道は痛い・危ない」といった先入観を持っていた生徒や教員からも、「楽しかった」「怖くなくなった」といった前向きな感想が多数寄せられた。生徒・教員ともに、メダリストによる実技指導を通じて柔道をより身近に感じることができ、柔道に対する興味や関心を深める貴重な機会となった。
4. もう一度柔道プログラム

過去に柔道を経験しながらも現在は離れている中高年層を対象に、安全に柔道へ復帰できるプログラムの策定を進めている。実際に柔道衣を着用しながら身体を動かし、医科学的根拠に基づいて取り入れるべき内容を検討した結果、怪我や身体的リスクを踏まえ、段階的に復帰を促すためには、年齢層や身体レベルに応じた構成が不可欠であることが明らかとなった。プログラムは概ね完成しており、来年度は本プログラムに基づいた練習会の開催を予定している。

5. 七割柔道クラブ

月に1回程度、都内柔道場において「七割柔道クラブ」と称した練習会を開催。本練習会では「疲れたら無理をしない・無理をさせない」をコンセプトに、無理のない範囲で楽しく安全に柔道を行うことを通じて、健康増進を図ることを目的としている。また、七割柔道クラブの地方展開も進んでおり、「自県でも実施してほしい」との要望を各地からいただいている。2024年度はその一環として、福岡および沖縄で開催を実現した。2025年度についても、地方開催への要望が継続して寄せられていることから、今後は全国展開も視野に入れ、さらなる拡充を図っていく。

6. 柔道学童保育

2024年4月より、「全柔連学童クラブ」を開所した。本クラブは、「転んでもケガをしないからだづくり」「礼節を重んじる」「楽しみながら体力を向上させる」をコンセプトに掲げ、柔道の要素を取り入れた運動プログラムを実施している。また、運動後には現役の東京大学の学生や大学院生が、学校や塾の宿題をサポートしており、学習面においても支援が行われている。現時点では利用児童数が少ないことから、今後は広報・周知方法の強化を図り、利用児童数の増加に努める必要がある。

7. 渋谷区防災キャラバンイベント「転倒予防ブースの出展」

11月9日に渋谷区立原宿外苑中学校で開催された「渋谷区防災キャラバン」において、転倒予防ブースを出展した。近年、転倒時に手をつけず顔面や後頭部を負傷する事例が増えていることから、災害時・非常時を想定した「安全な転び方（受身）」のデモンストレーションおよびレクチャーを行い、来場者に体験していただいた。また、転倒リスク測定装置を活用することで、参加者が自らの転倒傾向を把握する機会にもつながった。

8. 矯正局普及事業

2024年度は、東京・大阪・福岡・沖縄の各地域に所在する少年院および拘置所において慰問活動を実施した。活動内容は、メダリストによる講話および「安全な転び方」の指導であり、青少年の健全な心身の育成に寄与することを目的としている。また、刑務所に併設された柔道場を活用し、地域の子どもたちを対象とした柔道指導も行い、矯正局および地域社会との連携強化に努めた。来年度も引き続き本事業を継続し、矯正施設および地域へのさらなる貢献を目指す。

9. 転倒外傷予防指導員資格養成講習会の実施

11月24日に大阪にて第1回目となる転倒外傷予防指導員資格養成講習会を開催した。本講習会は、転倒に関する医科学的知識を説明できる人材の育成、ならびに柔道の動きを活用した「転びにくい体づくり」や、柔道の受身を転倒予防に応用できる指導者の養成を目的としている。併せて、当講習会で使用するテキストおよびオンデマンド教材も完成し、事業全体としての体系が整いつつある。来年度は、9月に東京、11月に大阪にて開催予定である。

10. スポーツ施設のコンテンツ検討

本事業は、スポーツ施設内の柔道場を活用し、各年代のニーズに応じた事業の展開を目的としている。2024年度は、千代田区立スポーツの柔道場を活用し、「シニア転倒予防・健康体操」と称する

高齢者向けの講習を毎月2回、半年間を1クールとして実施した。

本プログラムでは、転倒予防に不可欠な筋力強化やバランス能力の向上に加え、身体と脳を同時に活性化させる「コグニサイズ（認知機能と運動を組み合わせた体操）」を取り入れ、日常生活で必要とつさの判断力向上も目指した。半年間の講習を終えた参加者からは大変好評を得ており、継続的な運動の重要性を実感する貴重な機会となった。

1 1. ライブ配信動画コンテンツ制作事業

（1）以下の大会において、全柔連 TV にて試合映像のライブ配信・コンテンツ制作を実施した。

- ・全日本選抜柔道体重別選手権大会
- ・皇后盃全日本女子柔道選手権大会
- ・全日本柔道選手権大会
- ・全国中学校柔道大会
- ・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
- ・マルちゃん杯全日本少年柔道大会
- ・講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
- ・全日本シニア柔道体重別選手権大会
- ・全国高等学校柔道選手権大会

（2）実績

- ・視聴回数：8,587,681 回（通算：35,518,904 回）
- ・総再生時間：57,012 時間（通算：271,341 時間）
- ・チャンネル登録者数：13,451 人（通算：72,041 人）

事業報告 附属明細書

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。